

道徳授業に対する教員の取組や考え方の変化 —2023年度全国調査結果と2012年度調査の比較分析—

範 蘭心（東京学芸大学）

1. はじめに

道徳の時間が「特別の教科 道徳」として新たに位置づけられた今、学校における道徳授業への取組や教員の考え方はどんな状況か。東京学芸大学では、その把握のために2023（令和5）年度に小・中学校教員を対象に「道徳教育に関するアンケート調査」を実施した。なお、本学は2012（平成24）年度にも「道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査」を行っており、以来10年以上経過した。そこで本研究ではその間の教員の道徳授業への取組や意識の変化を検討するため、両調査の共通項目を生かして比較分析を行った。

2. 方法

■調査対象者 今次の2023年度調査は、郵送法にて抽出された小・中学校、義務教育学校と中等教育学校計3,622校に依頼状を送付し、オンラインで回答を収集した。有効回答1,527件のうち、小学校段階の教員は848名、中学校段階の教員は679名であった。2012年度調査は、郵送法を用いて抽出された小・中学校各々500校に調査票を送付し、質問紙調査が実施された。今回の比較対象となる一般校からは、有効調査票として2,622枚を回収し、そのうち小学校は1,360枚、中学校は1,262枚であった。

■分析内容 2回の調査における共通項目として、以下の内容を比較した。①道徳の授業（時間）で使用する教材、②効果的だと思われる資料・教材（お話）、③多く時間を使う指導方法・学習活動、④道徳の授業（時間）に対する印象、⑤多様な指導のあり方に対する考え、⑥道徳の授業（時間）の充実についての意見、⑦特に重視したい道徳の内容項目。

3. 結果・考察

以下、調査の集計結果より、その一部を示し、その回答傾向を考察する。

■道徳の授業で使用する教材

道徳の時間の指導で多く使うと思われる資料（教材）（2012）と、教科書以外に使用することがある教材（2023）の状況について、中学校の結果を割合順に図1・2に示した。

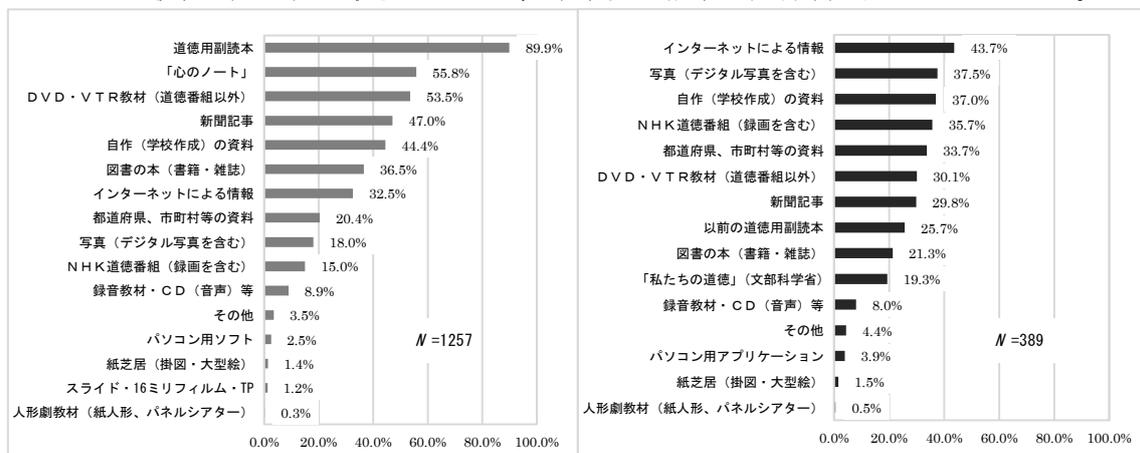


図1 多く使うと思われる資料（教材）2012年度・中学校（7つまで） 図2 教科書以外使用することがある教材2023年度・中学校（今年度すべて）

両調査の結果を比較すると、「新聞記事」や「図書の本」といった印刷媒体の使用が減少している一方、「インターネットによる情報」や「写真」といった資料の使用が大幅に増加するなど、教科書配布への環境の変化等に伴い、複数の出色的な変化がみられる。

■多く時間を使う指導方法・学習活動

調査協力者が学級での話し合い（一斉）の他に多く時間を使う指導方法や学習活動の状況について、小学校の結果を割合順に図3と図4に示した。

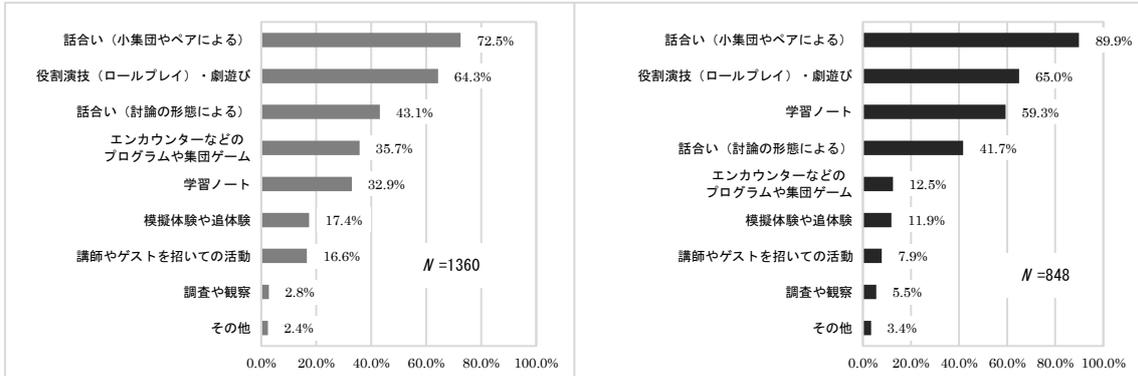


図3 多く時間を使う指導方法・学習活動 2012年度・小学校 (5つまで) 図4 多く時間を使う指導方法・学習活動 2023年度・小学校 (5つまで)

2012年度の結果と比較すると、「エンカウンターなどのプログラムや集団ゲーム」などの体験的な活動が減少している一方で、「学習ノート」の使用が多くなった。

■道徳の授業に対する印象

道徳の授業に対する調査協力者のもつ印象について、小学校の結果を図5に示した。

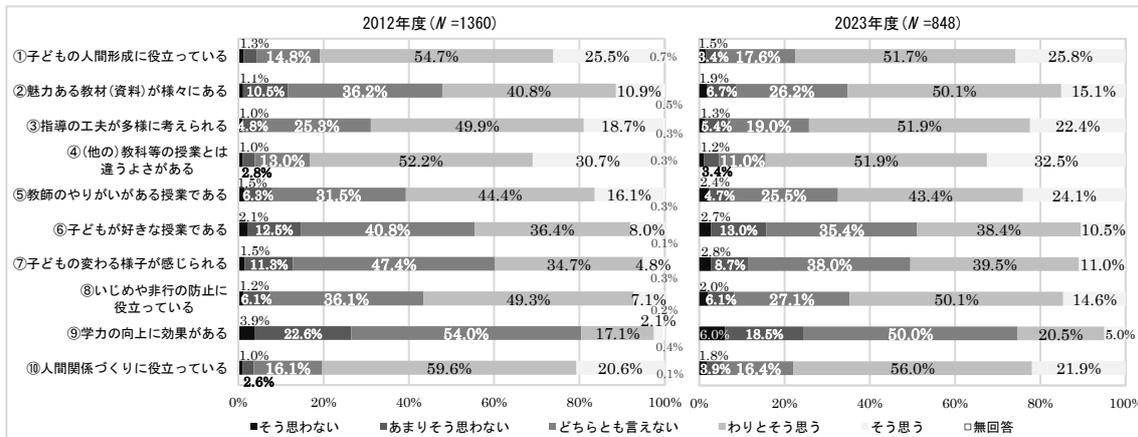


図5 道徳の授業(時間)に対する印象について

全体的にプラスの印象が多くなり、教員はこれまで以上にやりがいのある授業を実感し、子どもの変化や学力向上にもポジティブな印象をもっていることがとらえられた。

なお、上記以外の項目の検討結果については、当日の発表にて報告させていただく。

参考資料・文献

東京学芸大学「総合的道德教育プログラム」(2012). 道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査—道徳の時間への取組を中心として—〈結果報告書〉

範 蘭心・永田 繁雄(2024). 「特別の教科 道徳」に対する教員の意識と取り組み—道徳教育に関する全国アンケート調査の結果に基づいて— 日本道徳教育学会第103回大会

※本研究は、本学の上廣道徳・倫理教育研究開発推進室における取組の一つです。